

Densho Bato

でんしょ鳩



公益社団法人
北九州市障害福祉ボランティア協会
〒804-0067
北九州市戸畑区汐井町1-6 ウェルとばた6階
北九州市立東部障害者福祉会館内
TEL 093-882-6770 FAX 882-6771
E-mail:XLZ02133@nifty.ne.jp
URL:https://ksvk.jp/
◇郵便局振替口座/福岡 01740-4-8846
◇福岡銀行 戸畑支店 普通口座/2130527
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会

◇障害者の地域社会参加推進会議(旧拡大三役会議) 2~3P
「障害のある人の地域への社会参加を考える」
北九州市障害福祉ボランティア協会 常務理事 竹田 英樹

◆福祉のまちづくりネットワークプロジェクト リレーレポート② 4~5P
「徒然なるままに」
北九州市身体障害者福祉協会 事務局長 松本 大史さん

◇MYフレンド 6P
「ボラ協NEWヒーロー!スーパーボランティア」
竹本 豊さん

◆今年もサマーのままでは終わらない!! 7P
和彊クラブ 事務局 村田 義光さん

◇お知らせいろいろ 8P

座標軸

この夏、私たち足となる公共交通機関の珍事をニュースで知りました。

その一つは「路線バスの運転手が、左足と心臓機能に障害がある乗客に対し、降車時に早く降りるよう急がせた上」「障害者手帳は偽物だろ」と発言」

二つ目には「路線バスに車いすで乗ろうとしたところ、運転手から「この後、すいているバスが来るから」と乗車拒否にあった」と云うもので、それぞれ行政処分、謝罪となったとのことでした。人々の意識はいつまでたっても変わらないものなのかと情けなくなりました。

ある論評に、人々には、車いすを利用する障害者が「公共交通を利用するという発想がない」と書かれてあったことを思い出しました。

人口減少による過疎化、高齢化、自家用車の普及なども理由の一つだと思われませんが、赤字経営に加えコロナ感染なども影響してか公共交通路線の廃止が懸念されています。自治体を中心に市民の移動手段の確保としてコミュニティバスの運行をされる場所が増えて来ている。でも人々の移動手段が確保できたことを喜んでいたり、記者が実態を映像として紹介されていたのを見まして目を疑いました。コースの途中で折り返したり、時刻表より一時間早く出発させたりする不適切な運行が発覚しました。運転手の判断で乗客がいなかったからと不適切な判断で行われていたということが起きていました。

実情も知らないよそ者が推測で物言う失礼をお許し願いたい、誰もが安心して公共交通機関を利用できるように、様々な利用者がいることを理解して欲しいものです。(K・O)

「障害者の地域社会参加推進会議」(旧拡大三役会議) 障害のある人の地域への社会参加を考える

北九州市障害福祉ボランティア協会 常務理事 竹田 英樹

令和4年度の事業方針として「地域共生社会の実現へ向けて会員が主体的に活動する環境づくりをする」ことが総会で確認されました。具体的には身近な地域(小学校区・中学校区)に根ざした活動ということで、社会福祉協議会が実施している小地域福祉活動計画づくりを進めている市内の地区のうち、協会の会員が関わっている地域を数か所モデル地区として選び、色々な関係者の方々とともに活動を始めようとしています。

令和4年度の事業方針として「地域共生社会の実現へ向けて会員が主体的に活動する環境づくりをする」ことが総会で確認されました。具体的には身近な地域(小学校区・中学校区)に根ざした活動ということで、社会福祉協議会が実施している小地域福祉活動計画づくりを進めている市内の地区のうち、協会の会員が関わっている地域を数か所モデル地区として選び、色々な関係者の方々とともに活動を始めようとしています。

令和4年度の事業方針として「地域共生社会の実現へ向けて会員が主体的に活動する環境づくりをする」ことが総会で確認されました。具体的には身近な地域(小学校区・中学校区)に根ざした活動ということで、社会福祉協議会が実施している小地域福祉活動計画づくりを進めている市内の地区のうち、協会の会員が関わっている地域を数か所モデル地区として選び、色々な関係者の方々とともに活動を始めようとしています。

令和4年度の事業方針として「地域共生社会の実現へ向けて会員が主体的に活動する環境づくりをする」ことが総会で確認されました。具体的には身近な地域(小学校区・中学校区)に根ざした活動ということで、社会福祉協議会が実施している小地域福祉活動計画づくりを進めている市内の地区のうち、協会の会員が関わっている地域を数か所モデル地区として選び、色々な関係者の方々とともに活動を始めようとしています。

令和4年度の事業方針として「地域共生社会の実現へ向けて会員が主体的に活動する環境づくりをする」ことが総会で確認されました。具体的には身近な地域(小学校区・中学校区)に根ざした活動ということで、社会福祉協議会が実施している小地域福祉活動計画づくりを進めている市内の地区のうち、協会の会員が関わっている地域を数か所モデル地区として選び、色々な関係者の方々とともに活動を始めようとしています。

令和4年度の事業方針として「地域共生社会の実現へ向けて会員が主体的に活動する環境づくりをする」ことが総会で確認されました。具体的には身近な地域(小学校区・中学校区)に根ざした活動ということで、社会福祉協議会が実施している小地域福祉活動計画づくりを進めている市内の地区のうち、協会の会員が関わっている地域を数か所モデル地区として選び、色々な関係者の方々とともに活動を始めようとしています。

令和4年度の事業方針として「地域共生社会の実現へ向けて会員が主体的に活動する環境づくりをする」ことが総会で確認されました。具体的には身近な地域(小学校区・中学校区)に根ざした活動ということで、社会福祉協議会が実施している小地域福祉活動計画づくりを進めている市内の地区のうち、協会の会員が関わっている地域を数か所モデル地区として選び、色々な関係者の方々とともに活動を始めようとしています。

令和4年度の事業方針として「地域共生社会の実現へ向けて会員が主体的に活動する環境づくりをする」ことが総会で確認されました。具体的には身近な地域(小学校区・中学校区)に根ざした活動ということで、社会福祉協議会が実施している小地域福祉活動計画づくりを進めている市内の地区のうち、協会の会員が関わっている地域を数か所モデル地区として選び、色々な関係者の方々とともに活動を始めようとしています。

令和4年度の事業方針として「地域共生社会の実現へ向けて会員が主体的に活動する環境づくりをする」ことが総会で確認されました。具体的には身近な地域(小学校区・中学校区)に根ざした活動ということで、社会福祉協議会が実施している小地域福祉活動計画づくりを進めている市内の地区のうち、協会の会員が関わっている地域を数か所モデル地区として選び、色々な関係者の方々とともに活動を始めようとしています。

行事に障害のある人が参加できると思っていなかったり、そもそも障害のある人が参加できるような情報保障等がなされていないという現状があるようです。

市民センターは、心のバリアフリー事業を年1回手上げ方式で取り組んでいます。しかし高齢福祉関係の取り組みに比べ障害福祉関係のものには少ないです。

また市民センターを利用して、様々なクラブ活動が盛んに行われていますが、そこにも障害のある人の参加は少ないです。参加したいと思っている障害のある人がいるかもしれないという発想がなかったり、障害のある人の受け入れ方法等が分からないということもあるのかもしれない。

市民センターで活動している障害のある人を見かけることが少ないという声をよく耳にします。市民センターの



クラブ活動を紹介する際に、受け入れができる障害の一覧表などを入れておくと、障害のある人は申し込みがしやすいのではないのでしょうか。

市民センターを利用する障害のある人が増えれば、同じ地域に住む人たちにも障害のある人の存在が身近なものになると思うのです。

市内の各区では毎年1回小学校区単位で防災訓練を実施しているのですが、その対象地域に住んでいる障害のある人とその障害のある人の担当になつている民生児童委員さんが一緒に指定避難所に避難するというコーデイネーションを障害福祉団体連絡協議会(通称「障団連」)のボラ協担当事業として続けていますが、新型コロナウィルスの感染拡大によって3年近く中断している状況が続いてきました。

それでも今年度は地域の役

【障害のある人が地域に参加していくための課題】

地域の高齢者や障害者を支える役割を担っている人た

5回の会議で話し合われた概要は次のとおりです。

【地域での活動拠点である市民センター】

市民センターで活動している障害のある人を見かけることが少ないという声をよく耳にします。市民センターの

【防災を切り口にした地域での取り組み】

市内の各区では毎年1回小学校区単位で防災訓練を実施しているのですが、その対象地域に住んでいる障害のある人とその障害のある人の担当になつている民生児童委員さんが一緒に指定避難所に避難するというコーデイネーションを障害福祉団体連絡協議会(通称「障団連」)のボラ協担当事業として続けていますが、新型コロナウィルスの感染拡大によって3年近く中断している状況が続いてきました。

員さんたちでの小規模な訓練を実施するところもあることから、そんな対象地域に住んでいる障害のある人やご家族をご紹介しようと障団連の会員団体などを通じて声掛けをしているところですが、今一つ情報が集まっています。

会員の皆さんの周辺でもどなたかおられましたら、「一緒に誘いをして参加してみませんか？」

【地域の中での取り組みの紹介】



★小倉南区のある校区では社会福祉協議会のふれあいネットワーク活動として75歳以上の高齢者や障害者を対象に校区独自で「助け合い支援カード」を作成し、災害時にどういった支援が必要か等の情報を集めるという取り組みをしましたが障害のある人からの反応は数件にとどまったそうです。



また地域内の高齢者施設が避難所の役割を果たしており障害のある人たちも含めた様々な災害弱者を受け入れるための講習会を、市民センターを利用して実施しようとしています。

★事業所の近辺に小さい公園が2か所あるので、昨年から、その公園愛護会を引き受けて公園の整備を障害のある子たちと草取りをしたり、ゴミ拾いをしたりしています。町内会長からも「年寄りが多いので若い人がしてくれると助かるんよね」と事業所に顔を出してくるようになり、働いている障害のある人達と触れ合うきっかけが出来ました。

★ある障害福祉サービス事業

所が自分の校区の夏祭りに事業所で働いている障害のある人たちを連れて行ったところ、出店も色々あり「こんなお祭りがあつていいですね！」と喜んでもらえた。無理やり連れて行くのではなく「行きたい人がいれば、みんなで行こう」と声掛けをしたら、参加したいと言うのでみんなで参加した。最初は施設単位で参加するということから始めたので、障害のある人も地域の人も構えることなく付き合っていけると感じました。

★福祉施設の職員が地域の中

に役員として参加するところからスタートし、施設の色々なイベントに地域の方々を招待。次は地域のイベントに施設のみんなまで参加する。更に施設で陶器などを作成している障害のある人が講師として地域の方に教える。こういう取り組みをしている施設もあ

ります。また同じように障害者団体の中にも団体のイベントに地域の皆さんを招待したり団体として地域のお祭りに出し物をしたりという事例も会議のなかでは紹介されました。

地域での取り組みの中で、障害のある人も合理的配慮をすれば参加できるようなものや、自分の町内では、このような取り組みに障害のある人も参加している、など「地域の中の成功事例」情報を集めています。

皆さんの周囲でそんな事例がありましたら事務局にご紹介ください。

【更に地域への社会参加を進めるために】

障害者の地域社会参加推進会議では以上のような各自の持っている情報を出し合っ、その中からいくつかの具体的な提案もなされています。下半期は既に実施されている様々な事例を更に深掘りして、より効果的な方法をさぐってみたい、各自が地域の中での役割を果たしながらボランティア協会が果たすべき役割を見出していくことにしています。更にそれらの結果を整理しつつ、年度末までには関係行政や社会福祉協議会への提言書にまとめ、皆さんに提示し共有していけたらと考えています。

会議の最後には岡田理事長から、「災害時の支援対象としても含め医療的ケア児への支援についても忘れてはならない。まだまだ情報共有をしてボラ協として『地域を耕す』活動が沢山あるはずなので継続して検討しましょう」と締めくくりました。

※会議に参加されている方々からのご意見やそれを受けての具体的な取り組みについては、次回(12月号)でご報告しようと思っております。

福祉のまちづくり ネットワークプロジェクト

(リレーレポート②)

「徒然なるままに」

北九州市身体障害者福祉協会

事務局長 松本 大史

「福祉のまちづくりネットワーク(通称まちネット)」は、市内の障害者団体や関係団体が結束し、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるために結成された有志の団体です。

1994(平成6)年に結成され、平成29年には行政とのバリアフリーに関する窓口の本化を図るため、北九州市障害福祉団体連絡協議会(障団連)の特別部会「福祉のまちづくりネットワークプロジェクト」へと変化し、今日まで30年近く活動を続けています。

平成18年からまちネットの定例会に参加し始めて、私も振り返ればまちネットの歴史の半分を共にしていることに気付きました。

付き合いが長くなってくると、感じるようになることも

いくつか出てくるもので、今回はそんなことをいくつか書きたいと思います。

ポイント① まちネットに関わる 障害のあるメンバーの 固定化傾向

今、まちネットの定例会は、新型コロナウイルスの影響もあり、開催したりお休みしたり、状況ですが、基本的には奇数月の第3水曜日が定例となっています。

定例会は、市の道路計画課をはじめ、案件によっては担当部局の職員がバリアフリーに関する提案を持つてくるため、担当者と直接意見交換が出来る場となっています。

本来であれば、いろんな障害の人が自身の立場から意見を述べるチャンスであるにも関わらず、近年では「定の障害に偏ったかたちで参加メンバーが固定化し、いつも同じ顔触れになってきました。今は、参加してくれ

ているベテランメンバーが他の障害のことにも触れながら意見を出してくれています。これから先40年、50年とまちネットが長く活動を続けていくためには、もつとさまざまな障害の人がまちネットに関わっていかなければいけないと思います。今、第一線で経験と知識に基づいた意見を述べてくれている人たちが歳をとったり病気になるたりして関われなくなった時、まちネットのレガシーを後の人に受け継いでいくためにも

「新規メンバー求む！」

です。



ポイント② 相談案件が意見を 聞くだけになって いるケースがまだまだ多い

まちネットの定例会は、工

事に入る前に市の担当者が図面等を持ってきて説明をして、まちネット側の意見と事前にすり合わせるというスタイルをとっています。工期にゆとりがある時期に「すり合わせ」をすると、関係各所との調整、交渉についての余地もあり、落とし所が作れるからです。しかし、市内至る所で工事が行われている案件について、定例会で全て議論する訳にはいかないので、ゆとりがない案件も相談に挙がってくる場合があります。そうしたケースは交渉の余地がない場合が多く、私もメンバーと同行して、現地点検に行く機会がここ数年増えましたが、現地点検で担当者にお伝えしたことが叶わず撃沈という経験を何度も味わいました(無理難題なことを言っているわけではないです)。このような撃沈ケースの場合、納得はしていないけれどどうにもできないという形で、結果まちネットに意見は聞いた上で工

広告



SKC 会計グループ 税理士法人 SKC

税務代理業務 ・ 税務相談業務

グループ会社

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町3番3号
TEL. 093-482-5588 / FAX. 093-482-5566
http://www.sakaikaei.co.jp/

株式会社さかい経営センター 株式会社北九州経理代行センター
一般社団法人 相続・贈与相談センター北九州

事は行われた」という事実だけが残ることになります。

まさに、聞くだけで終わり、という結果です。

意見を「聞く」と「聴く」

では大きな違いがあります。聞くだけになるなら、何のための相談だったんだろう、となります。

使う人の安全と次に活かすという視点で「聴いて」「二階」に考えましょう。

ポイント③
積み重ねてきたものが活かされないまま
同じことが繰り返される

確かに、ガイドラインにはつきり規定がないようなケースの場合、現地判断がしにくい。そのため、市の方がまちネットを通じて当事者の意見を聞く必要はあると思います。しかし、過去必要な指摘についてはなぜそうしなければいけないかという理由を立ち合いの都度説明してきた経緯があります。

すので、過去と似た事案を参考にある程度の判断は出来るのではないのでしょうか？

障害者差別解消法では、必要な「合理的配慮」は当事者からの申し出があればしなればいけません。が、公的施設の整備については、申し出があつてから必要性を検討しても、予算がないとか工事が終わっているので手遅れということがたくさんあります。

しかし、担当者の中に障害のある人への困りごとについての気付き(聞こえない人たちがすべてが字幕だけで内容を理解できるわけではないので、映像資料には手話も必要なんだ、など)があれば、手遅れになる前に、また後からの無駄な出費になる前にストップがかけられるし、まちネットとしても同じことを繰り返して説明しなくても良くなる、チャットのポイントも少なくなるという、win-winな状態になります。

お互いのwin-winのため

に、道路や施設を利用する障害のある人たちの困りごとについて、知識の引き出しを一緒に増やしていきませんか？

ここまで、長くなりましたが障害のある人、支援団体、行政など、まちネットに関わる全ての人で、これからの事について一緒に考えていけたら、今思うことを徒然なるままに書かせていただきました。

まちネットプロジェクトでは新規メンバーを募集します!!
まずはお気軽に
事務局にお問い合わせください
TEL 093-882-6770
FAX 093-882-6771

合理的配慮とは

障害のある人が障害のない人と同じように社会生活に平等に参加できるようにそれぞれの障害特性や困りごとに合わせておこなわれる配慮のことです。

- 例 手話通訳・要約筆記
点字資料やテキスト資料
エレベーターやスロープも
合理的配慮の一つだね



広告 明るく・元気に・前向きに! 困ったときはお互い様

業務内容

安全標識作成、資料の電子化、データ処理、印刷各種、各種コピー、大型カラー出力、印刷物(ポスター、記念誌等)の企画・デザイン

私たちは一人ひとりが生き生きと働ける職場づくりを実現します。



三菱ケミカル(株)100%出資特例子会社
化成フロンティアサービス株式会社
〒806-0004 北九州市八幡西区黒崎城石1-1
TEL093-643-4390 FAX093-643-4393
<http://www.kfs-mc.co.jp>





♪ボランテニア協会(以下ボラ協)との出会いはいは？

今年の二月に行われた「北九州市民カレッジ」を受講してボラ協のことを知りまし

♪どんな活動に参加されていますか？
コロナの感染が増えたため8月9月のサークル活動は

話ぐらいいしかできませんが、活動を続けていきたいと思っています。

♪ボラ協のサマースクールでも活躍していただいていますね

初めて活動したのは3月のウインタースクールのバリアフリー映画上映会です。

さんが映画館の椅子に移乗する際の介助を手伝いました。

上映会は、映画館の一室を貸し切り、照明を少し明るめ、音量を控えめに設定し、初めての映画館で泣いてしま

うお子さん、声が出てしましてお子さんがいても、何度も席を立てて出入りしても気にしなくて良いように配慮されていると説明を受けました。

今年は映画に加えバラリ



竹本 豊さん

ンピックで話題になった競技「ボッチャ」の活動も体験し実際に子どもたち、ボランテニアのチームで対戦もしました。子ども達と関わる活動では自分も一緒に楽しんでいきます。

趣味は読書です。伊集院静さんや今野敏さんの作品が好きでよく読んでいます。

本が好きなので、図書館での活動もしています。

月一で朗読の教室に参加しています。朗読

の技術を磨き地元図書館で子ども達に読み聞かせの活動をして、読書の楽しさを伝えることができればと思っています。

♪今後やってみたい活動はありますか？
ボラ協で収集した切手を整理する活動にも参加し



ています。汚れたり破れたりした切手を避けたり、余白の多い切手や封筒をハサミで整え整理します。

知り合いに中学校のPTA会長さんがいるので切手の収集に協力して欲しいと話しています。生徒が主体で活動していく校風と聞いたので、若いうちに関心を持ってほしいし、障害のある子どもたちに積極的に関わってもらいたいと思ったります。そのきっかけとして、誰でもできる切手集めなど簡単なことから知って欲しいと思います。

- 聞き手 鈴木 喜子
- 文章 船寄 靖子

Advertisement for Best Choice (有)ベスト・チョイス, featuring a car illustration and contact information for a senior life counselor.

今年もサマーの ままでは 終わらない!!

和彊クラブ

事務局 村田 義光

今年度のサマースクールのプログラムのうちの2つの行事にボランティアとして参加しました。

8月20日(土)、東京パリンピックで大いに盛り上がった「ボッチャの体験」を2家族参加で行いました。残念ながら参加者が少ないのはコロナ禍では致し方ないかなと感じました。今回は、ボッチャ初体験の子どもたちに馴染んでもらえる様にと目標球に近づける本来のゲームではなく、コート内に得点エリアを設けて(5点・3点・1点)ボールを投げ終わった時点で得点数が多いチームが勝利する、その名も、5・3・1ゲーム。

でのトーナメント戦で優勝を目指しました。

最初は、ボールコントロールに四苦八苦していた子ども達ですが、ゲームを進めていく中で段々と得点エリア内に入るようになり喜びを全身で表していました。

また、ボランティア・職員チームもゲームを楽しみました。今回、学生のボランティア参加がなく、コロナが終息して再び参加されるように願っています。



その分、我々高齢者ボランティアは、コート作り、片付けなど手際よくやれたと思っています。次回は、ボッチャ本来のゲームを多くの子ども達や学生さんの参加で行えることを楽しみに。

9月4日(日)「ミニオンズファイバー」映画会が開催さ

れ家族を含めた50名と久しぶりに多くの参加者でした。映画館ではコロナ禍であつても家族連れや友達同士など多くの方がそれぞれの映画を楽しみに来ています。

参加した子ども達は、ワクワク感を漂わせながら入館して見ました。通常では車いす利用者は最前列の指定場所で見ることになるのですが、貸し切りですので好きな座席での鑑賞を楽しんでいました。

上映中に声をあげても問題なく、ボランティアや職員がいるので保護者の方も安心して映画を楽しまれたのではないのでしょうか。約1時間半の上映終了後にお土産をもらつて子ども達は家路につきました。

今回、ボッチャ・映画会とボランティア活動に参加しましたが、毎回感じることは、保護者の方が子どもさんを生懸命に育てているのが見て取れることです。

こういう行事が増えていけば短時間でしようが、保護者の息抜きにつながるのではないのでしょうか。もちろん、子ども達にも良い影響があると思います。

ボランティア活動に参加して感じるのは、お世話しているというよりも、子ども達から元気をもらうことが多く、これからも可能な限り行事に参加したいと考えています。



コロナ禍3年目、夏休みの短縮に加え学校2学期制も進行中、今年度も長期休暇対策事業(通称..サマースクール)はサマーだけでは終わりません、年間を通して楽しい企画を検討中。

素敵なアイデア大募集

BY 事務局

広告



山内 税 理 士 事 務 所 株式会社 北九州会計事務所

税 理 士 山 内 英 樹

〒802-0014 北九州市小倉北区砂津1-3-18

TEL 093-541-0035

FAX 093-541-0038

ご協力・ご提供ありがとうございました。(敬称略)

○ご寄付(公益社団法人への寄付は、寄付控除の対象となります)

赤崎 雅仁

○使用済み切手・テレカ・ハガキなど

岡村 正子 加地 秀子 古賀麻里子 下田 猛

杉本 和代 日隈あけみ 村上 啓泰 山内 英樹

生き方のデザイン研究所 株式会社スピナ

株式会社ジェイコム九州北九州局

とびはた村 富士岐工産株式会社

北九州市点訳・音訳ボランティア連絡協議会点訳部

北九州市保健福祉局保護課

○バザー品

公文真理亜 高橋 朱美 長野 陽子 西村 邦子 吉田 栄

遊びに来てね!!

人権啓発を目的とした「ふれあいフェスタ2022」に、ボラ協はリサイクルバザーで出展します。同時に「北九州市障害者芸術祭」も開催されます。



●日時

11月20日(日) 11時~16時30分

●会場

ウエルとばた2F交流プラザ 他

※リサイクルバザーの品物も募集中です!

詳しくは事務局 093-882-6770まで

協会カレンダー

17日(土)

国際車いすバスケットボール大会

16日(金)

北九州チャンピオンズカップ

15日(木)

会報237号発行

15日(木)

障害福祉団体連絡協議会街頭啓発キャンペーン

12月

3日(土)

障害福祉団体連絡協議会街頭啓発キャンペーン

20日(日)

「ふれあいフェスタ2022」バザー出展

9日(水)

常任委員会

6日(日)

車いすバスケットボール大会ボランティア事前研修会②

11月

29日(土)

車いすバスケットボール大会ボランティア事前研修会①

27日(木)

障害福祉団体連絡協議会常任委員会

23日(日)

東部障害者福祉会館「ふれあい広場」バザー出展

18日(火)

福岡県福祉情報センター障がい者福祉専門委員会(竹田)

15日(土)

会報236号発行

5日(水)

第10回障害者の地域社会参加推進会議(旧拡大三夜会議)

集めています! ご協力ください!!

ボラ協では下記の物を集めてその資金を障害福祉の様々な活動に活用しています!ぜひ、ご協力をお願いいたします。

①使用済み切手(古切手)

お家や会社にご送られてきた封筒に貼られた切手を集めています。周囲5mmくらいの余白をつけて切り取ってください。

②未使用・書き損じハガキ

書き間違えたハガキなどは郵便局で手数料を支払えば新しい切手やハガキと交換してくれるので連絡通信費の削減になります。

③使用済みテレホンカード

テレホンカード他、プリペイドカードも集めています。